



Aimedic MMT



道野 邦男 先生 (右)

同愛会病院 副院長
整形外科 部長

尹 智弘 先生 (左)

同愛会病院
整形外科 医長

略歴

1988年 順天堂大学医学部卒業
日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会認定リウマチ医
身体障害者福祉法指定医

1999年 韓国 釜山大学医学部卒業
日本整形外科学会専門医

AI-Wiring System を用いた肘頭骨折治療の工夫

はじめに

AI-Wiring System は骨折部に適度な圧迫固定力を加えたい肘頭骨折や膝蓋骨骨折などの治療に適した固定材料である。われわれは肘頭骨折に対して AI-Wiring System を用いた観血的整復固定術を多く行ってきたが、ケーブルを尺骨遠位の骨孔に通す際の操作には難渋することがある。

つまり骨孔を貫通したケーブルを引き抜く際にケーブル先端を傷めてしまい、ピン付スリーブにケーブルを通し難いことがある。また尺骨に骨孔を作成するために皮膚切開が長くなる傾向があった。

われわれは小さな皮膚切開で尺骨の骨孔を作成し、ケーブルの先端を傷めることなく設置可能な MY デバイス (図 1) 手術に用いている。

今回はこの方法で観血的整復固定術を行った肘頭骨折の症例を経験したので報告する。



図 1 MY デバイス

症例

59 歳 男性

既往歴 特筆すべきことなし

現病歴 2012 年 2 月 3 日に転倒し受傷した。
当科を受診し、右肘頭骨折と診断した (図 2)。
2 月 9 日に手術を行った。



図 2

AI-Wiring System を用いた肘頭骨折治療の工夫

■ 手術手技

肘頭のピン付スリーブ刺入部から骨折部にいたる約3cmの皮膚切開を加え、転位した骨片を整復した。X線透視で整復が良好なことを確認し、ピン付スリーブを刺入した。この際、ピン付スリーブは対側の骨皮質を貫く必要はなく、髄内に刺入しても固定性に問題は生じなかった。

次に、cableを通す骨孔を作成するため尺骨遠位に約1cmの皮膚切開を行い、われわれの考案したdeviceを装着した。deviceの尺側は尺骨神経の損傷を避けるため、骨膜まで十分に剥離した後、イメージにて骨孔位置を確認、2.0mmのK-wireでdevice刺入孔より骨孔を作成した(図3、4)。



図 3



図 4



図 5

作成した骨孔にdevice刺入孔よりCableを挿入した後、deviceを抜去した(図5)。Cableの先端を傷めないように注意しながら皮下を通してピン付スリーブまで導き、圧迫固定を行った。術後のX線像では良好な整復が得られており、早期ROM訓練を行った(図6、7)。



図 6



図 7

■ 考察

われわれは肘頭骨折や膝蓋骨骨折の固定材料としてAI-Wiring Systemを用いてきた。

AI-Wiring Systemは強固な固定が得られるため原則として術後は外固定を行わず、可及的早期に可動域訓練を開始している。

平成23年5月より肘頭骨折に対して本方法を用いて手術を行った症例は4例で、いずれも小さな皮膚切開で良好な整復位が得られ、術後早期の可動域訓練が可能であった。

肘頭骨折に対するtension band wiring法は確立された手術方法であるが、われわれの行っている方法は小さな皮膚切開で骨孔の作成が可能であり、cableの先端を傷めないためピン付スリーブに容易に通す事ができる。

従来の方法より手術時間は短縮され、4例と少ない経験ではあるが満足できる結果が得られている。

製造販売業者: 株式会社 **Aimedic MMT**

〒108-0075

東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス

TEL: 03-5715-5211 / FAX: 03-5715-5265

URL: <http://www.aimedicmmt.co.jp/>

医療機器届出番号: 13B1X10253000011 | 販売名: MYデバイス

医療機器承認番号: 21200BZY00214000 | 販売名: AI-ワイヤリングシステム

医療機器承認番号: 21600BZZ00521000 | 販売名: ステンレスケーブル(滅菌品) | CRW03-20-1710-1500E04

